

(中田守ほか)、「私のサクラソウ栽培」(斎藤常夫ほか)、「サクラソウの仲間 文化史」(大垣晃一)、「日本サクラソウ研究史」(井上健)、「礼文島の思い出」(高橋幹男)、「サクラソウ撮影旅行——自生地への案内」(富田幹夫)と続いている。口絵に91葉のカラー写真が掲載されている。

さくらそう 鳥居恒夫著

日本テレビ 昭和60年 B5判 151ページ 上製本

「はじめに」で、「現有品種の3分の2に当たる205品種を収録した大図譜が初めて実現することになりました」とあるように、各品種が美しいカラー写真で紹介され、花柱形、標準花径、花形、花容、花色、作出年代、類似品種を記し、特徴を述べている。全体構成は「サクラソウの園芸品種」、「サクラソウの野生品と自生地」、「サクラソウ培養の歴史、サクラソウ品種の特色と分類、サクラソウの育て方」が大きな柱となっている。著者の鳥居氏は、刊行時、東京都神代植物公園に勤務しており、以後も都内の植物園関係の公務にあたっているが、一方、さくらそう会の事務局設立以来、担当している。自宅でも2000鉢にも及びサクラソウを育てている。

(所蔵：浦和市天然記念物調査会)

田島ヶ原サクラソウ自生地
成育状況調査結果

今年の調査は4月18日、19日に実施し、その結果は、次のとおりでした。

1. 10m四方(1アール)の平均株数は2,799株で、昭和40年からの調査開始以来5番目に多い。
2. 前年比5.8パーセント増、昭和40年比13.1パーセント増となる。
3. 株数は、推定では全体で100万株程度と見られる。
4. 成育株数に対する開花株数の比は、24.4パーセントで、これも前年に比べ多くなっている。

自生地の焼き払い

田島ヶ原のサクラソウ自生地では、その維持管理の一環として冬期に自生地を覆う枯草の焼き払いを実施しています。この写真は平成8年1月31日の様子ですが、今年も1月末に予定しています。



ヘルドさんの手紙

ポール・ヘルド氏 (Mr. Paul Held)

アメリカ サクラソウ協会会長。コネチカット州在住。1996年4月に来日、浦和市内に滞在し、サクラソウ自生地を観察したほか、浦和市をはじめ各地のサクラソウ展示会を見学。関係者との意見交換会などを行った。

浦和市では、さくらそう展の表彰式に参列し、あいさつをした(写真)ほか、埼玉さくらそう会の幹部らとの意見交換会をもった。

今号より2号にわたって、ヘルド氏からよせられた浦和訪問記をご紹介します。

浦和の印象

浦和市での滞在を振り返ると、楽しい思い出が浮かんできます。しかしながら、同時に、私が住んでいる町の環境と人々の態度とを、浦和市のそれと比べてしまいます。浦和市の第一印象は、誰もがなんて開放的で友好的なのだろう、というものです。誰もがすべての人に敬意を払います。階級を意識した態度、すなわち、私の方があなたより偉い、または、私の地位の方が上だ、下だ、という態度は存在しないようです。まるで家族、それも大家族の一員であ

るかのように、誰もがすべての人のために働いているように思えます。

もちろん、福祉や市民の幸せ、市の外れにある川の土手に咲く小さな花にまで、欠かせないことを、浦和市の行政が効率的に計画し、実行していることにも感銘を受けました。市長、教育長及びすべての市職員が一体となって、浦和市を素敵な街、素敵な人々の暮す街、そしてそこに暮す人々が街に抱く願い、自分たちのための街であって欲しいという願い

を満たしてくれる街、そんな街を築くために働いておられます。多くの人々による、このような幸福な協調作業を見ることができたのは、素晴らしいことです。

すべての人々がすべての人々に対して抱く尊敬の念に習い、私も、皆様方のお一人お一人がなさっている素晴らしい仕事に、頭を下げたいと思います。ぜひ見たいと願っていた野生のプリムローズと、専門の栽培者に育てられたプリムローズとを見ることができました。私が素敵な経験ばかり味わえるように計ってくださる方と出会えたのです、実際その通



「サクラソウ展表彰式であいさつをするヘルドさん」

りの経験が出来ました。これには、愛情と気遣いと計画と敬意が必要です。私の滞在をこれほどまでに素晴らしい経験になるよう力を尽くしてくれたすべての方々、お一人お一人に感謝します。素晴らしい経験でした。

野生のプリムローズ、田島ヶ原のサクラソウの保護、保存について、今後もその責任をお引き受けくださることを、浦和市の皆様をお願いしたいと思います。子どもたちに、自然が備える美しさと貴重さを愛し、理解するよう教えてください。そしてまた、古い歴史を持つサクラソウであるからこそ、保存するだけでなく、伝統を支え、守るとともに、新たな品種を作り出すこともお続けくださるようお願いいたします。

埼玉さくらソウ会の指導者たちとの夕食の席でも申しましたとおり、私はサクラソウの花を見るためにこの地を訪れました。しかし帰国する私の胸の中は、浦和の人々から受けた感銘で一杯だったのです。

Paul Held

(訳 K.Megumi)

サクラソウ学習成果

国語の教科書で田島ヶ原サクラソウについて学習した、滋賀県長浜市立神照小学校4年生は、全学年が班ごとにその成果を冊子にまとめて発表した。同校4年生の担任の一色寛子教諭を通じて、その成果が一括して浦和市教育委員会に送られてきた。各班とも工夫した冊子にまとめ、図を入れ説明を加えており、児童なりの感想が述べられている。真剣に取り組んだ姿がうかがわれる。記されていた意見・感想のうち、いくつかを紹介する。

○これからも、さくらそうをまもって下さい。そしてさくらそうを大切にして下さい。けれどもさくらそうだけを大切に守っていてもだめですから、さくらそうもほかの自然も大切にしてください。

○私たちは、この勉強をして花や虫たちを大切にすることがよくわかりました。

○自然ぜんたいをまもったらサクラソウもまもれると思いました。サクラソウをまもるのはむずかしいけどがんばってください。

○自分たちでできること。紙のむだづかいはしない。ゴミを捨てない。川をよこさない。

○ちょっとしたことでぜんをまもれるんだ。

—— 滋賀県長浜市立神照小学校4年生の発表 ——



さくらそう通信

平成9年1月10日

編集・発行 浦和市教育委員会

浦和市常盤6-4-4

☎048-829-1796

印刷 関東図書株式会社



題字 教育長 浅見 匡